

医学教育分野別評価 弘前大学医学部医学科 年次報告書 2024 年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.32

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2021 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022 年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36 を踏まえ、2024 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域 1.1～1.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、使命について学内関係者への周知を行った。今後は、使命や学修目標策定の際に、学生や教員などのより多くの関係者の意見を収集する体制を構築し、見直しを図ることが課題である。

1.1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 使命の中の「医学部のミッションの再定義」には地域医療への貢献に関する詳細な内容が記載されている。

改善のための助言

- ・ 医学部の使命として、「医学科の理念・目的」、「医学科の教育目的」、「ディプロマ・ポリシー」、「医学部のミッションの再定義」が挙げられており、これらの関係性を明確にして、教員や学生等に分かりやすく示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科教員および学生に示すべきものとして「医学科の理念・目的」と「カリキュラム・ポリシー」および「ディプロマ・ポリシー」を選択し、それらと「医学部のミッションの再定義」との関係性について整理し、シラバスで明示した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ、理念・目的等

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 国際的健康、医療の観点について、より明確に使命に包含することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023 年度は本学の使命の周知を徹底した。今後は、国際的な健康、医療の観点を本学の使命等を含めることについて、検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科の使命

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの作成に関わる委員会として、カリキュラム委員会、カリキュラム委員会実務者会議、カリキュラム検討部門があり、それぞれの役割分担と自律性について整理して教育施策を構築し、実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会は、教員と学生から構成されるカリキュラムの立案を担う組織名称である。カリキュラム委員会が開催する実務者会議は教員のみを参加者として定期開催される。また、学生からのカリキュラムに関連するニーズを聴取する機会として学生委員を含む全体会議も開催される。これらの会議を経てカリキュラム委員会が立案したカリキュラムを学務委員会が実施・運営する。このような各委員会、および会議の役割分担を明確に整理した。2023 年度には、カリキュラム委員会実務者会議を 7 回、学生代表が参加する全体会議を 2 回開催した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 103 医学部医学科教学 PDCA サイクル図
- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 105 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 106 令和 5 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各

実務者会議開催実績

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 現行カリキュラムの課題に関して、より多くの教員が適切に提案できるようにすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学内各講座で教育業務を中心的に行う教育講師などを含む「教育教授等」の称号付与制度を2023 年度に創設した。臨床系診療科の教育教授等が医学教育センターの臨床能力開発部門が担当する OSCE で評価される基本的臨床技能教育に関与する過程で、臨床前教育の改善点、臨床実習で強化する教育内容について、学務委員会等に具体的提案をすることが可能となる体制を構築している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科教育教授等の称号付与に関する要項
- ・ 資料 108 弘前大学医学部医学科臨床能力開発委員会に関する申合せ
- ・ 資料 109 弘前大学医学部医学科臨床能力開発委員会委員名簿（令和 5 年度）

1.3 学修成果

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学修成果として卒業時コンピテンス(10 領域) および卒業時コンピテンシー(66 項目) を定めている。

改善のための助言

- ・ 学修成果について学生および教員に十分周知し、理解を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全学年のシラバスに学修成果を記載している。シラバスは毎年全ての学生、および教員が所属する講座に配布される。

また、全ての学年に実施される年度開始時のオリエンテーションにおいて学年ごとのアウトカムを提示している。

2023 年度からは教員対象の FD においても学修成果を示すことで周知を行うとし、2024 年度以降も継続し、周知の徹底を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 110 弘前大学医学部医学科各学年のアウトカム
- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科理念・目的等
- ・ 資料 113 医学教育センター主催 FD ポスター
- ・ 資料 114 第 2 回医学教育センター主催 FD 資料

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命の策定に学生とより多くの教職員が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023 年度は、前年度に整備されたカリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会に学生が参加する体制を活用し、学生委員から使命に関する意見を広く聴取した。

また、教育教授等を中心に各講座から使命についての意見を広く抽出し、教員からも意見を求めた。今後は、得られた意見を医学教育センター運営会議等で議論し、使命の見直しについて検討する体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 105 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医科学務委員会申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医科学務委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 117 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 106 令和 5 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績
- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科教育教授等の称号付与に関する要項

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と目標とする学修成果の策定には、他医療職種、地域医療関係者や患者代表等、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023 年度は、将来医学を学ぶことに関心のある地域の高校生から、本学が定める学修成果について意見を聴取した。

今後は、本学の臨床教授等を務める地域医療関係者等、さらには本学他学部や他大学等の教育関係者から意見を聴取する手法について検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 110 弘前大学医学部医学科各学年のアウトカム
- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科理念・目的等
- ・ 資料 119 令和 5 年度第 1 回医学ゼミナール（兼医師を志す高校生支援事業）講演資料
- ・ 資料 120 弘前大学医学部臨床教授及び臨床准教授に関する規程
- ・ 資料 121 弘前大学医学部臨床教授・臨床准教授称号付与者名簿

2. 教育プログラム

領域 2.2～2.8 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、カリキュラム委員会の活動を実質化し、臨床実習前カリキュラムの水平・垂直統合を促進するために、3 ターム制の導入検討を 2022 年度に開始した。今後は、臨床実習において重要な診療科での実習期間の確保および経験すべき主要症候・疾患を学修できる環境を整備し、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）への対応を継続的に図ることが課題である。

2.1 プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 臨床推論能力を涵養するために 4 年次後期に PBL を 3 か月実施している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の臨床推論および基本的臨床技能の獲得を促進するために、4 年次後期 PBL と臨床実習入門の科目とを連携させることを目的として、共用試験実施機構が推奨する動画を 4 年次後期 PBL の際に閲覧できる体制を構築した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 201 2023 年度 PBL ガイド（学生用）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムを通して医学研究や臨床の実践に必要な、批判的・分析的な思考に基づく科学的手法の原理を体系的に教育すべきである。
- ・ 臨床実習の現場で EBM の教育を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度に卒業時コンピテンシー「IX. 科学的探求」に対応した各学年のアウトカムの内容を再構築し、それぞれの教育マイルストーン（アウトカム）に効果的に教育プログラムを連結させ、カリキュラムを通して科学的探求能力育成が可能となる構成とした。2023 年度はこの構成カリキュラム運営により、科学的手法の原理の体系的な教育を実践した。

臨床実習で、根拠に基づいた地域医療実践を実現するために、臨床実習に関する FD を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 110 弘前大学医学部医学科各学年のアウトカム
- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー
- ・ 資料 202 基礎人体科学演習シラバス
- ・ 資料 203 研究室研修シラバス
- ・ 資料 113 医学教育センター主催 FD ポスター

- ・ 資料 204 第 5 回医学教育センター主催 FD 資料

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 被ばく医療総合研究所の教員を中心に放射性物質の物理的性質から人体への影響まで、体系的な教育をしていることは、特色ある取り組みとして評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の防災や被ばく医療教育を強化するために、医学科 1 年次学生が防災科学について学び、防災士資格の取得を推奨する科目を新たに構築した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 205 環境と生活－弘前大学災害対応マネージャーその 1 防災科学－シラバス
- ・ 資料 206 医学・医療の世界－弘前大学災害対応マネージャーその 2 災害医学－シラバス
- ・ 資料 207 地球環境－弘前大学災害対応マネージャーその 3 原子力災害の理解－シラバス
- ・ 資料 113 医学教育センター主催 FD ポスター
- ・ 資料 208 第 3 回医学教育センター主催 FD 資料

2.3 基礎医学

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを明確にした上で、組織的に教育方針を決定しカリキュラムに反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

青森県を含む北東北は 2045 年までに急速に高齢化や過疎化が進むと予測されている。複合的問題を持つ患者や過疎化に関連する社会問題について対応できる医療者教育カリキュラムの策定を、弘前市内の医療系大学 2 校と連携し、多職種連携を集中的に学ぶ選択型ワークショップ授業を構築した。また、1 年次医学生が本学保健学科看護学専攻の学生と同時に早期体験実習を実施する授業を整備した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 209 弘前大学医学部合同演習（医療系多職種連携に関する授業）資料
- ・ 資料 210 多職種連携合同演習実施記事（令和 5 年 9 月 17 日陸奥新報 2 面抜粋）
- ・ 資料 211 臨床医学入門シラバス

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 行動科学、医療倫理学、および医療法学について、さまざまな科目にわたっている教育内容を整理・統合し、統轄責任者を定めて管理する体制を構築して、順次性を明確に規定した上で実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 年次「医の原則」を医療倫理学の基礎プログラムとして定め、シラバスに明示し、授業を実施した。

1 年次「臨床医学入門」に基礎的な行動科学を履修するセクションを設け、シラバスに明示し、授業を実施した。

4 年次「臨床実習入門」に、医療倫理学、行動科学の応用的内容および医療法学を履修するプログラムをシラバスに明示し、授業を実施した。

これらの「医の原則」、「臨床医学入門」、「臨床実習入門」で取り扱う医療倫理学、行動科学、医療法学の順次性をシラバスに明示して、包括的に、行動科学・医療倫理学・医療法学について教育する体制を整備した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 212 医の原則シラバス
- ・ 資料 211 臨床医学入門シラバス
- ・ 資料 213 臨床実習入門シラバス

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関し、社会情勢や時代の変化に対応してカリキュラムを修正する体制を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

青森県を含む北東北が今後直面する高齢化や過疎化などの社会問題について、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学などの授業で取り上げるカリキュラムを構築した。これらの社会情勢の変化に応じて、カリキュラム修正を実施する必要性について、医学教育センターなどで検討を継続している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 214 医学教育センター組織図
- ・ 資料 103 医学部医学科教学 PDCA サイクル図
- ・ 資料 215 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 216 学務委員会議事要旨
- ・ 資料 217 プログラム評価委員会議事要旨

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「岩木健康増進プロジェクト」に学生が参加し、健康増進や予防医学、地域保健に関し体験する機会を早期から組み込んでいることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 診療参加型臨床実習をより充実させ、臨床技能・医療専門職としての技能を早期から計画的に十分な期間をとって修得できるようにすべきである。
- ・ 学生が経験すべき主要な症候・疾患を定義し、臨床実習期間に十分修得できるようにすべきである。
- ・ 重要な診療科で十分に学修できるよう実習期間を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 年次「臨床医学入門」の科目に多職種連携などを基軸とした臨床コミュニケーション技能に関する演習・実習を取り入れた。

4 年次「臨床実習入門」では、医学教育モデル・コア・カリキュラムに記載の症候・病態を基盤として、学生が経験すべき主要な症候・疾患を定め、「症候学」の授業を構築し、臨床推論育成を重視した PBL と有機的に連携させる構成とした。

重要な診療科で十分に学修できるような学生のニーズに対応した臨床実習のローテーションを構築している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 211 臨床医学入門シラバス
- ・ 資料 218 令和 5 年度臨床医学入門 -早期体験実習（E.E.）要項-[1 年次]
- ・ 資料 219 2023 年度臨床医学入門 -早期体験実習（E.E.）基礎看護学実習Ⅰ実習要項（共通部分）
- ・ 資料 213 臨床実習入門シラバス
- ・ 資料 220 症候学シラバス
- ・ 資料 221 PBL シラバス
- ・ 資料 222 臨床実習Ⅰ（クリニカルクラークシップⅠ）日程表

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 臨床医学教育のカリキュラムを社会の変化に対応して、組織的・体系的に調整や修正することが望まれる。
- ・ 2 年次学生、3 年次学生の教育段階に合わせて、患者診療への参画を深めることが望まれる。
- ・ 教育プログラムの進行に合わせ、臨床技能教育を適切な時期に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

社会の変化に柔軟に対応できるカリキュラムの垂直・水平統合を可能にするカリキュラム構造を実現するための 3 ターム制の導入について、医学教育センターなどで検討した。

3 年次学生の社会医学実習において、早期から患者や地域住民と接する授業を実施しているのに加えて、青森県と連携し、2 年次から 4 年次学生が地域医療機関で夏季休暇期間に希望制実習を実施できる環境を構築した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 217 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 223 社会医学実習シラバス
- ・ 資料 224 令和 5 年度弘前大学医学生地域医療早期体験実習パンフレット（青森県）

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 診療参加型臨床実習前に基礎と臨床のつながりを意識し、臨床推論能力・問題解決能力を涵養するカリキュラムを十分な時間をとって配置している。

改善のための助言

- ・ 教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示したカリキュラムマップを作成し、教員と学生が教育プログラム全体を十分に理解できるようにすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度に作成されたカリキュラムマップを学内のシラバスおよび HP に掲載している。

2023 年度は、さらに FD 等にて学内に周知を図っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 225 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ
- ・ 資料 226 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【HP】
- ・ 資料 113 医学教育センター主催 FD ポスター
- ・ 資料 114 第 2 回医学教育センター主催 FD 資料

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 関連する科目の水平的統合・垂直的統合を推進し、より効果的な教育体系を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

水平的統合・垂直的統合を促進する 3 ターム制の導入について、医学教育センターなどで検討した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 217 プログラム評価委員会議事要旨

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 組織の中でカリキュラム委員会の位置づけを明確にし、規程を定めて責任と権限を持って

カリキュラムの立案と実施に対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「カリキュラムの立案」をカリキュラム委員会の役割と明確に定め、医学教育センター運営会議での検討内容をもとに新たなカリキュラムの立案を実施し、カリキュラムの実施・運営についての主体委員会としての学務委員会に諮問する形を構築し、委員会を定期開催している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 227 医学教育センター運営会議議事要旨（令和 5 年 11 月開催）
- ・ 資料 103 医学部医学科教学 PDCA サイクル図
- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育カリキュラムの改善と実施について、カリキュラム委員会の活動を実質化することが望まれる。
- ・ カリキュラム委員会に広い範囲の教育の関係者の代表を含み、その意見をカリキュラム改善に反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会（学生代表を含む）を定期開催し、活動の実質化を図っている。また、学務委員会およびカリキュラム委員会に医学教育の専門家がオブザーバー参加した。

2022 年度に新設された地域基盤型医療人材育成センターの運営会議を開催し、2023 年度は本学教員、他大学教員および自治体職員から、本学の教育について広く意見を求めた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 106 令和 5 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績
- ・ 資料 215 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 228 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議議事要旨

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒前教育と卒後の教育・臨床実践とのスムーズな連携のために、カリキュラム委員会と総合臨床研修センターの組織としての役割をより明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会と総合臨床研修センターとの構成員については、組織図およびそれぞれの会議の出席者について明確に区分して整理している。一方、卒前・卒後の教育をシームレスに運営するために、学務委員会の委員として総合臨床研修センターの担当教員が参加する体制とした。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 105 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医科学務委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 229 医学部附属病院総合臨床研修センター卒後臨床研修部門運営委員会委員名簿

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒業生の働く環境や地域からの情報を体系的に確実に収集し、教育プログラムの改良につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

青森県健康福祉部および青森県医師会関係者と意見交換し、地域卒学生等をはじめとする卒業生が働く地域からの情報を収集している。さらには、青森県自治体病院連携協議会との会議において卒業生の進路に関する統計情報を共有し、教育プログラムの改善に向けた議論を行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 230 青森県健康福祉部幹部職員との意見交換会（概要）
- ・ 資料 231 2023 年度青森県医師会・弘前大学医学部 男女共同参画セミナーポスター
- ・ 資料 232 令和 5 年度 弘前大学医学部・青森県自治体病院連絡協議会議事要旨

3. 学生の評価

領域 3.1～3.2 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、臨床実習での教育による評価やフィードバックを強化するための FD を積極的に開始した。今後は、学年ごと

の学修成果の達成度をモニタリングする体制を構築することが課題である。

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 再試験に関する規程を整備して、開示すべきである。
- ・ 学生の知識、技能および態度を確実に評価し、ポートフォリオ等を用いて学年ごとに学修成果の達成をモニタすべきである。
- ・ 様々な評価方法と形式をそれぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないように規程を整備すべきである。
- ・ 評価が外部の評価者によって精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

再試験に関する規程整備は 2022 年度に完了している。

高学年学生の知識、技能の評価およびフィードバックを強化するために、4 年次の臨床実習 OSCE の結果について迅速にフィードバックし、不到達者については補講を積極的に実施し、最終的に再試験 OSCE の到達基準にもすべての受験生が到達した。

6 年次対象の国家試験トライアルに参画し、結果について迅速に 6 年次にフィードバックし、効果的な学修を促した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 301 弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ
- ・ 資料 302 OSCE 再試験の練習について（基本的臨床手技）
- ・ 資料 303 総合教育演習Ⅲの実施について

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・ 臨床実習に、MiniCEX、患者や多職種による 360 度評価等の多様な評価法を導入することが望まれる。
- ・ 学生の評価について学外臨床実習施設の指導医等、外部評価者を活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習の主要な診療科において Workplace-based assessment としての形成的、総括的評

価を実装し、運営している。また、2023 年度臨床実習前 OSCE に青森県内臨床研修病院の指導医を評価者として招聘し、評価を実施した。

今後は、臨床実習における評価票の標準化に向けた対策を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 304 臨床実習 I 評価票（内科、外科、産婦人科、小児科）
- ・ 資料 305 弘前大学医学系共用試験 OSCE（4 年次）実施に伴う評価者について（依頼）

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒業時コンピテンシーと教育方法に整合した評価を実践すべきである。
- ・ 学生の学修を促進する評価を確実に実施すべきである。
- ・ 形成的評価と総括的評価との適切な比率を検討し、学生の学修と教育進度を評価すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習などを中心に積極的に形成的なフィードバックが実施できる体制を構築するために、臨床実習に関連した FD を開催し、効果的なフィードバックを含んだ臨床実習の運営について情報共有を図った。

今後は、臨床実習において、主要な診療科ごとの横断的な評価のための評価票の標準化について検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 113 医学教育センター主催 FD ポスター
- ・ 資料 204 第 5 回医学教育センター主催 FD 資料

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、試験の回数と方法（特性）を適切に定めることが望まれる。
- ・ 学生に対して評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、公正なフィードバックを行い、学生の学修をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

定期試験における再試験の回数について 2022 年度に規定している。

学生にとって特に重要な総括的試験となる CBT、臨床実習前 OSCE、総合試験について、迅速にその結果を受験生にフィードバックした。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 301 弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ
- ・ 資料 306 【学務・お知らせ】CBT（本試験）の結果配付について
- ・ 資料 307 【重要】臨床実習前 OSCE 個人成績表の配付について
- ・ 資料 308 総合試験（卒業試験）結果（掲示用）

4. 学生

領域 4.1、4.3、4.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、本学の地域医療への貢献などの使命や、20 年後の医師に必要となる情報科学技術能力などの基盤となる能力を持つ学生を選抜する入学試験実施に向けて体制を構築した。今後は、入学した学生のカウンセリングおよび卒業生のフォローアップ体制の整備などが課題である。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全国最大規模となる学士編入学生の受け入れを行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き、学士編入学生の受け入れを継続する。また、学士編入学生が卒業後の臨床研修に関するフォローアップ体制について検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 401 第 27 回総合臨床研修センター卒後臨床研修部門運営委員会 議事要旨
- ・ 資料 402 令和 7 年度弘前大学医学部附属病院臨床研修プログラムの定員について
- ・ 資料 403 【令和 2 年度入学 学士編入学生対象】卒業後の臨床研修先について

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2021（令和 3）年度の新たな大学入試制度に対応して、アドミッション・ポリシーを見直した。

改善のための示唆

- ・ 選抜と、医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力をより詳細に関連づけることが望まれる。
- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度について規程を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生募集要項に、2023 年度以降の入学者に適応となるキャリア形成卒前支援プランについて明示し、本学の地域医療貢献の使命との関連を明記している。

2025 年度からの入学者選抜方法について改革し、これからの医学生に求められる資質・能力と関連付けた（一般選抜および総合型選抜 II について大学共通テスト科目に「情報」を追加、一般選抜個別学力検査で課している「総合問題」を「数学」と「外国語（英語）」に変更）。これにより、論理的思考と情報科学の基本的能力を有する学生を選抜し、今後求められる医療データサイエンスに長けた医師養成の基盤形成を試みるとともに、すでに挙げられている本学の卒業時コンピテンシーと選抜科目の連結が明瞭となった。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 404 令和 6（2024）年度学生募集要項〔一般選抜〕（P9）
- ・ 資料 405 令和 6（2024）年度学生募集要項〔総合型選抜〕（P35）
- ・ 資料 406 令和 7（2025）年度入学者選抜方法等の主な変更点について

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域や社会からの健康に対する要請に合うように、多くの地域卒学生を受け入れていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

引き続き地域卒学生の受け入れを継続し、卒業後の進路についてもフォローアップする。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 407 令和 5 年度卒業生の研修先について

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 社会的、経済的、および個人的事情に対応して学生を支援する多様なプログラムを提供していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 学生を対象とした学修上の問題に対するカウンセリング制度をさらに充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修上の問題を有する学生について、学務委員会委員を中心にカウンセリングを実施している。また、全学の保健管理センターとも連携し、学生にカウンセリングの窓口を広く保っている。今後は、医学教育センター学生生活支援部門の活動を強化し、学生のカウンセリング制度を体系化する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 408 令和 4 年度留級者に対する面談について
- ・ 資料 409 医学科の学生相談について
- ・ 資料 410 医学教育センター運営会議議事要旨（令和 6 年 1 月開催）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命の策定、教育プログラムの策定および管理、学生に関する諸事項等について、学生の

代表が各委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各学年の学生代表が参加する医学教育センターのカリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会を定期開催している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 105 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 117 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿（令和 5 年度）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

5. 教員

領域 5.2 基本的水準における「改善のための助言」を受け、FD 活動の活性化を図り、共用試験公的化、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）への対応などの具体的テーマを取り扱った FD を開催した。今後は、講演会以外の形態での FD 開催が課題である。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全学の教員ポイント制の枠の中で教育ニーズやバランスを考慮しつつ、教員の募集と選抜方針を策定して履行している。

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域医療や被ばく医療といった地域に固有の重大な問題を踏まえた教員の選抜が、使命と

の関連性を考慮して行われていることは評価できる。

- ・ 全学的な教員ポイント制の制約の中、学内講師、研究教授等の職位や寄附講座の設置等により、経済的事項を考慮した教員人事が行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学内で教員経験があり、FD を受けた者が、臨床教授等として学外臨床実習施設での指導を担当する体制が構築されている。

改善のための助言

- ・ 講演会だけでなく、ワークショップ等を含めた多様かつ実効性のある FD を実施し、教育に関する能力開発を促す機会を充実させるべきである。
- ・ 個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

FD 活動を活性化し、2023 年度は 5 回の FD を実施し、うち 3 回は学内教員を講師として、他 2 回は学外から医学教育学の講師を招聘することで、多様性に富む FD を実施した。

また、文部科学省や医学教育学会などから周知された医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に関する Web セミナーなどを教育教授等に周知し、医学教育の最新知見について教員に広く情報提供した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 113 医学教育センター主催 FD ポスター
- ・ 資料 501 【周知】R4 年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの理解と活用のためのオンラインシンポジウムのお知らせ

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生数の増加や臨床実習期間の延長に伴う教育ニーズの増加を考慮し、学外臨床実習施設における指導者の確保が行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外臨床実習施設における指導者に対して FD を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 502 令和 5 年度学外臨床実習 FD ポスター
- ・ 資料 503 令和 5 年度学外臨床実習 FD 資料

6. 教育資源

領域 6.2、6.3、6.5、6.6 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学外臨床実習施設での学外 FD を積極的に実施するとともに、文部科学省支援事業等により、ICT に関連する設備を整備した。今後は、FD のオンデマンド化を進め、教員の指導負担軽減と指導能力の向上の両立を図ることが課題である。

6.1 施設・設備

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver. 2.36 の内容は以下のとおりである。

注釈

- ・ [安全な学修環境]には、有害な物質、試料、微生物についての必要な情報提供と安全管理、研究室の安全規則と安全設備が含まれる。
日本版注釈：[安全な学修環境] には、防災訓練の実施などが推奨される。
日本版注釈：[安全な学修環境] には、解剖用献体の適切な保管が含まれ、解剖体に関する記録ならびに保管は関係する法律や省令に定められている（医学及び歯学の教育のための献体に関する法律、医学及び歯学の教育のための献体に関する法律に基づく正常解剖の解剖体の記録に関する省令）。

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学外臨床実習施設やその指導者を確保することにより、地域医療およびへき地医療に関する幅広い臨床実習を可能としていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 各臨床実習施設における患者数と疾患分類について調査し、学生が適切な臨床経験を積めるような体制を確保すべきである。
- ・ 医学部附属病院だけでなく、学外実習施設の指導医についても FD 等をとおして指導能力を高め、臨床実習の質を担保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR 部門により 2021 年度に実施されたクリニカルクラークシップ学生が経験した疾患群および疾患数の調査により、本学の臨床実習生は良好な臨床経験を獲得していると判断がなされている。

2023 年度は、学外講師による臨床実習に関連した FD を実施し、効果的な臨床実習教育に関する医学教育学的知見、教育手法について教員の指導能力の向上に努めた。また、学外実習施設の指導医に特化した FD も積極的に開催した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 601 臨床実習における電子カルテの参照履歴解析(2019 年 3 月-2020 年 3 月)
- ・ 資料 113 医学教育センター主催 FD ポスター
- ・ 資料 204 第 5 回医学教育センター主催 FD 資料
- ・ 資料 502 令和 5 年度学外臨床実習 FD ポスター
- ・ 資料 503 令和 5 年度学外臨床実習 FD 資料

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 情報通信技術の利用状況や、それを利用した学修状況を把握すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学分野での情報通信技術に関する基本的な事項に関して、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の新規に加えられた資質・能力である「科学技術を活かす能力」に対応する授業として1年次の医用工学を再構築した。

本学が採択されている文部科学省公募の大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」での拠点連携のためのeラーニングシステムを導入し、ICTを通じた全国の採択校との教育コンテンツの共同利用に向けた連携を開始した。これらをはじめとする本学のオンライン学修支援システムは、各学生の使用状況のデータを確認することが可能となっている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 602 医用システム工学概論シラバス
- ・ 資料 603 筑波大学 地域医療教育 e-learning システム 共同利用基本パッケージのご案内

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 自己学習のための新たなオンライン学修支援システムを構築している。

改善のための示唆

- ・ 保健医療提供システムにおける業務に関する情報通信技術の活用をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度補正予算文部科学省「医学部等教育・働き方改革支援事業」により 2023 年度に OSCE 実施支援システムを導入し、OSCE 運営の際の評価を円滑に実施するために、動画撮影と連携した評価票の記入が可能かつ一元的にクラウド保管・管理可能な情報通信システムを構築した。

また、画像診断遠隔カンファレンスシステムを導入し、本学医学部附属病院と青森県、秋田県および北海道内の臨床実習施設等を繋ぎ、放射線画像についての双方向的な議論が可能となる環境を構築した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 604 令和4年度大学改革推進補助金（医学部等教育・働き方改革支援事業）交付申請書
- ・ 資料 605 OSCE 実施支援システム機能仕様書
- ・ 資料 606 画像診断遠隔カンファレンスシステム導入に関して

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究と教育が関連するように育む方針に基づき、4 か月にわたる「研究室研修」が実施されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究室研修を継続し、医学生の医学研究に関する素養を育む。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 203 研究室研修シラバス
- ・ 資料 607 2023 年度 研究室研修／医学英語Ⅲ 発表会スケジュール

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

6.5 教育専門家

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラム開発や教育技法および評価方法の開発について、教育専門家の利用についての方針を策定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度に本学が採択された文部科学省公募の大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の助成により、教授 1 名、助教 1 名を医学教育学講座専任教員として配置した。2023 年度は、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）への対応に関する FD の実施、公的化 OSCE への対応を中心に学内医学教育の質向上に寄与した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 608 医学教育学講座新設記事（医学部ウォーカー第 103 号抜粋）
- ・ 資料 113 医学教育センター主催 FD ポスター
- ・ 資料 114 第 2 回医学教育センター主催 FD 資料
- ・ 資料 609 臨床実習後 OSCE 実施要項
- ・ 資料 610 2023 年度 弘前大学医学部 共用試験臨床実習前 OSCE 実施概要

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 国際交流研究委員会を設置し、国外教育機関・医療機関への教職員ならびに学生の派遣、受け入れを進めている。

改善のための助言

- ・ 国外機関だけでなく、学内他学部を含め国内の教育機関との交流を推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度に、秋田大学を連携校、弘前市内の医療系私立大学を協力校として採択された文部科学省大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」により、学内他学部を含め国内の教育機関との連携を強化した。

2023 年度には、本学医学科学生、保健学科学生、弘前学院大学および弘前医療福祉大学の学生が参加する多職種連携ワークショップを開催した。また、本学医学科 1 年次、看護学専攻の学生が合同で実地学修する附属病院内早期体験実習を開講した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 210 多職種連携合同演習実施記事（令和 5 年 9 月 17 日陸奥新報 2 面抜粋）
- ・ 資料 211 臨床医学入門シラバス

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

7. 教育プログラム評価

領域 7.1～7.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、IR 部門の活動を実質化し、またプログラム評価委員会を定期開催し、カリキュラムのさらなる改善に向けてのプログラム評価体制を構築するとともに、今後は、各学年のアウトカムの達成度を定期的に評価するシステムの構築が課題といえる。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生の入学試験の成績や入学後の各試験の成績、GPA 等に関するデータの収集、管理を行っている。

改善のための助言

- ・ IR 部門とプログラム評価委員会の活動を実質化し、カリキュラムと学修成果を定期的にモニタする仕組みを設け、評価の結果をカリキュラムに反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会を定期開催し、学修成果に応じた教育プログラムの再評価を継続的に実施している。今後は、医師国家試験の結果と、卒業までの本学の教育カリキュラムにおける学生の学修成果等との関連について、IR 活動として検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 106 令和 5 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域医療や被ばく医療も含めた学修成果、長期間で獲得される学修成果についてデータを収集し、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育学講座（2022 年度設置）に所属の医療情報学の専門家が IR 部門との連携を強化し、

本学の特色である地域医療教育、災害被ばく医療教育等に関するデータを継続的に収集し、包括的にプログラム評価を実施する体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 214 医学教育センター組織図

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学務委員会のメンバーが6年次学生全員と面談を行い、学生自治会との懇談会も実施して学生の意見や要望を直接聴取している。

改善のための助言

- ・ 教育プログラムに関する分析・対応を可能にするため、教員と学生からのフィードバックを系統的に求めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

オンライン化された学生からの教育評価アンケート制度について、回収率の向上に向けて、集計からフィードバックまでの効率化を図った。今後は、アンケート結果についてプログラム評価委員会等にて分析を実施し、カリキュラム委員会にて授業の改善を図る体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 701 令和5年度前期「教育評価アンケート」実施について（依頼）
- ・ 資料 702 教育評価アンケート実施マニュアル（2023.07.03版）
- ・ 資料 703 （掲示用・1～4年前期）教育評価アンケートの実施について

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2年次における教育の過密を避けるために学生から意見を聞いている。

改善のための示唆

- ・ 系統的なフィードバックの結果を利用して教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学務委員会、カリキュラム委員会、プログラム評価委員会に学生委員が参加し、学生の視点からのフィードバックがリアルタイムに聴取される体制が構築されている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 215 カリキュラム委員会議事要旨

- ・ 資料 216 学務委員会議事要旨
- ・ 資料 217 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 704 クリクラⅡのマッチングについてのアンケート結果

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの変更やPBLの導入等により、意図した学修成果が達成されているか学生と卒業生について調査し、分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各学生の学修成果については、授業科目ごとにデータが蓄積され、さらには毎学年 GPA が算出されている。卒業生にも本学の教育カリキュラムについて、毎年アンケート調査を実施している。

カリキュラムの変更が学生や卒業生の学修成果（特に医師国家試験等）に与えた影響について調査する体制の構築について検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 705 医学部医学科 2023 年度 GPA データ
- ・ 資料 706 2023 年度 卒業生に対するアンケート調査 実施概要
- ・ 資料 707 2023 年度 医学科卒業生アンケート調査

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域枠や学士編入学等の入試種別や学生の背景に応じた、学修成果の達成状況を学生と卒業生について分析し、責任ある委員会に時宜を得たフィードバックを行い、教育改善につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医師国家試験の成績と学生の背景の関連とその対策について、学務委員会等で検討した。今後はこれらの検討結果をもとに、サポートを要する学生を早期に識別し、適切な支援を行う体制の構築を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 708 学務委員会実務者会議議事要旨（令和 5 年 4 月開催）

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ プログラム評価委員会に各学年の学生代表が含まれている。

改善のための助言

- ・ プログラム評価委員会に教育に関わる主要な構成者を含め、教育プログラムのモニタと評価を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会に学生委員を加え、定期開催している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 117 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 217 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 106 令和 5 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育プログラムのモニタと評価を確実にを行い、その結果を広い範囲の教育の関係者が閲覧できるようにすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

文部科学省大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関連する教育プログラムについて、地域基盤型医療人材育成センター運営会議および教育カリキュラム専門部会を開催し、構成員として学外教員や自治体職員等を招聘し、プログラムの成果について、幅広い関係者に周知した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 709 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議委員名簿

- ・ 資料 710 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議議事要旨
- ・ 資料 711 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会委員名簿
- ・ 資料 712 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会議事要旨

8. 統括および管理運営

領域 8.1、8.2、8.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学教育センター内の部門の機能分担を推進した。今後は、各部門の委員会に地域の他大学や学内の他学部との教育関係者が参加できる体制を構築することが課題である。

8.1 統括

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学教育に関するほぼすべての業務を医学教育センターに集約しているが、その下部組織である部門の位置付けを明確にすべきである。
- ・ 医学部および全学の IR 部門の機能と役割分担を明確にして、データを集積し有効活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センターの 7 部門の機能分担を明確化するとともに、各部門が効率的に活動できる体制を構築し、定期的に医学教育センター運営会議を開催している。

医学教育センターIR 部門に医療情報学の専門家が加わり、機能を強化しつつ、全学 IR 部門との連携も進めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 214 医学教育センター組織図
- ・ 資料 801 医学教育センター運営会議議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教学に関する委員会組織に、主な教育関係者やその他の教育関係者の意見を反映すること

が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教学に関する委員会組織（カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会）に各学年から選出された学生代表が入り、学生の意見を反映する体制が構築された。さらに、医学教育専門家の教員がオブザーバー参加する体制を構築した。

弘前大学医学部連携教育施設における FD を開催し、学外教育施設の指導医等の意見を聴取できる体制を構築した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 105 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 117 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿（令和 5 年度）
- ・ 資料 502 令和 5 年度学外臨床実習 FD ポスター

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医学部長、講座の主宰者、医学教育センター長およびその部門長、教学関係の委員会委員長等の教学のリーダーシップの評価を、使命と学修成果に照合して定期的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センターをはじめとする教学関連の各リーダーの活動（リーダーシップ等を含む）に関する自己評価体制の導入を試みる。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域医療に関連する6つの寄附講座を開講して、地域医療の向上に努めていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療関連の寄附講座と連携しつつ、継続的に地域医療の向上に取り組んでいる。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 802 大学院医学研究科常勤職員現員表

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究科事務部は学務グループと総務グループからなり、学事に関する事務全般、入試、国際交流等、多岐にわたる業務を担当している。

改善のための助言

- ・ 円滑な業務を遂行するために事務部門をより一層充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学務グループに事務職員を配置し、人的資源を強化した。

今後は、学務事務職員に医療者教育学に関連する講習受講などを推奨し、専門性の高い知識を持った職員を養成し、継続的に学務グループの業務に関与できる事務体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 608 医学教育学講座新設記事（医学部ウォーカー第 103 号抜粋）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 弘前大学における組織評価を毎年行っており、機関別認証も定期的に受審している。
- ・ 事務職員および技術職員の評価を実施している。

改善のための示唆

- ・ なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 青森県や弘前市をはじめとする自治体の保健医療部門や保健医療関連部門と積極的な交流を図っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

自治体の保健医療部門や保健医療関連部門との積極的な交流を持続展開している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 224 令和 5 年度弘前大学医学生地域医療早期体験実習パンフレット（青森県）
- ・ 資料 803 令和 5 年度青森県医師臨床研修病院合同説明会ポスター

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「岩木健康増進プロジェクト」、「いきいき健診」等で、スタッフと学生が保健医療関連部門と協働して活動していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「岩木健康増進プロジェクト」、「いきいき健診」等の活動を継続展開している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 804 2023 年度 岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診
- ・ 資料 805 2023 年度 大規模認知症コホート研究（いきいき健診）

9. 継続的改良

領域 9 基本的水準における「改善のための助言」を受け、医学教育センターを構成する部門の活動を実質化し、学生委員を含む委員会を定期開催した。カリキュラムの垂直・水平統合を目的に 3 ターム制の導入の検討を開始した。今後は、学修成果の達成度の継続的な評価のための体制を構築することが課題である。

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育プログラム、構造、内容、コンピテンシー、プログラム評価ならびに学修環境を定期的に見直し、課題を特定して継続的に教育改善を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム、カリキュラムの構造、教授内容、コンピテンシー、学修環境を定期的に見直すとともに、プログラム評価を継続的に実施し、見出された課題を特定して継続的に教育改善を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 103 医学部医学科教学 PDCA サイクル図
- ・ 資料 801 医学教育センター運営会議議事要旨
- ・ 資料 215 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 216 学務委員会議事要旨
- ・ 資料 217 プログラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準：評価を実施せず